

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391500077		
法人名	ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームいだけ		
所在地	名古屋市名東区平和ヶ丘一丁目109番地		
自己評価作成日	平成27年8月1日	評価結果市町村受理日	平成28年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.aichi-fukushi.or.jp/kaigokouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F
訪問調査日	平成27年9月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いだけでは、家庭的で小規模で穏やかな雰囲気の中で、ご利用者お一人おひとりがその人らしく生きがいを持って過ごしていただけるよう支援いたします。ホームは静かで緑豊かな住宅街にあり、和風調の建物で間接照明を用いて光が刺激とならないよう配慮したり、廊下にも椅子やベンチが置かれ落ち着いた雰囲気作りに努めています。家庭的な雰囲気の中で、それぞれの方の特技、趣味を活かした活動を楽しめる方も見えます。食事を3食ともユニットで作っており、家事活動(調理、配膳、後片付け等)を通してできることを行っていたり、ケアに活かしています。入所者が安心して過ごしていただける環境づくりに努めています。また、自治会に加入しており、自治会の行事への参加、地域の方を交えての運営推進会議等を通して地域の方との交流に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは静かな住宅街にあり、小学生の登下校時には子供の元気な声が聞こえたり、緑の木々があり穏やかな雰囲気である。利用者は料理作りや食器洗い、洗濯物たたみなど出来ることを行ったり、気心知れた仲間とゆったり会話を楽しむなど、思いのままに時間を過ごし、いつしかホームが自分の居場所となっている様子がうかがえる。運営推進会議では、家族や地域の人から多くの意見をもらい、真摯に受け止め、できることから一つずつ改善する努力が見られる。地域では、掃除や音楽会や夏祭りに利用者も参加したり福祉体験の受け入れも行き、今後もさらに地域との交流が深まり、利用者の思いに沿ったサービスが提供できるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念として、「ゆったりと自由な暮らし」「穏やかで安らぎのある暮らし」等9項目をつくり掲げユニット、職員ロッカーに掲示している。管理者は日々のケアの中で出た課題について理念を用いて職員と意見交換を行っている。	職員一人一人に理念の紙を配布し、各ユニットの見やすい場所に掲示している。日々のケアで管理者と職員が理念の意識付けに向けて話し、毎年年度初めの会議では理念について話し合い実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入。学区で主催の行事には積極的に参加するようにしている。地域の方から野菜や食器、洗剤等の日用品をいただくこともあった。	自治会に加入し、自治会名簿にはホームの名が記入されている。夏祭りでは利用者用い場所がセットされお茶をいただいたり、コミュニティ音楽会に利用者も参加している。今後さらに交流を深めたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事、運営推進会議や地域での会合等への参加の機会に、ホームの紹介、実践内容を発信するように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回開催している。ホームの活動内容を主に報告し、地域代表者様、ご家族より助言をいただき、サービスの向上に活かせるように努めている。	会議では、家族や地域の役員から多くの意見や提案が出されている。それらの意見の対応策を話し合い、報告するとともに、できることから一つずつ改善しサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区への申請書類の提出時や市主催の講習会等の機会に施設の現状の報告をし、市町村担当者と意見交換するようにし、協力関係を築けるよう努めている。	事業所の実情を報告したり、困りごとを市、区、いきいき支援センターに相談するなど、協力関係を築けるよう努めている。今後はいきいき支援センター主催の講習会に参加し連携を深めたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則行っていないが、緊急性がある場合等は本人・ご家族の意向を伺い対応している。	マニュアルを職員に配布し、拘束をしないケアの振り返りを行なっている。拘束を行う場合は、家族に説明をし同意の署名をもらい、月1回のカンファレンスで拘束の必要性についての話し合いを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自主的な研修会・勉強会への参加にとどまっている。虐待と思われることは管理者が注意を払い、ユニットリーダーへ報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自主的な研修会・勉強会への参加にとどまっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が行う、契約の終結、解約の際には本人もしくは家族の意向をくみ取り、理解、納得が図られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、不満、苦情については苦情受付担当者(管理者)が受け止めるようにしている。ケアプランの更新の際に「介護に対する要望書」のご家族への送付、「ご意見承り用紙」を玄関に設置し、要望を受け止め反映できるように努めている。	家族には、「いだけ便利」などで日々の様子を伝え、意見を言いやすい雰囲気作りを心掛けている。要望書や意見承り用紙をさらに活用し、苦情や要望を受け取り運営に反映させたいと考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の法人全体会議に代表者は出席し、管理者の意見を聞き、管理者はホーム内の会議や年2回の人事考課の面談等の機会に職員の意見や提案を聞き、反映するよう努めている。	職員からリーダーへ、リーダーから管理者へ意見を伝える体制がある。管理者からは全体会議で意見を代表に伝える機会がある。年2回人事考課があり、職員が思いを表出しやすいよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は人事考課時に職員個々と個人面談を行い意向の把握に努めている。代表者は管理者の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	系列施設との合同勉強会や関連法人が開く勉強会に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の事業者連絡会主催の会議や勉強会へ参加する等、同業者と交流する機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に契約時等で本人との面談を行っている。本人の状況については、家族、入居前に利用しているサービス提供事業者からも情報を聞き、本人の安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時、入所申込み時、契約面接時には時間をゆっくりかけるようにしている。入所後もこまめに電話や面会でコミュニケーションを図り、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込み時に本人、家族が置かれている状況を把握し、利用可能なサービスや事業の活用を支援できるよう、情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできることをみつけ、職員と一緒にやっている。職員が助かった時等は「ありがとうございました。助かりました。」等、本人が自分の役割を認識できるような声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に食器洗い、施設内の掃除を行ってくれた時があった。また、家族が施設で必要な食品や日用品等を提供下さる時は「助かります」とありがたいただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の精神状態に配慮し、可能な範囲で支援している。また、ご本人の心に残る大事な人や場所等会話の中におり込んだりしながら関係が途切れないように努め、家族の協力もいただいている。	入居の際に家族から聞き取った生活歴の情報から、馴染みの人や場所を把握し、日々の会話で話題にしている。家族の協力も得ながら、馴染みの関係が途切れないような支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置や職員が話の仲介に入る等、利用者同士の関係に配慮している。誕生日会、音楽会等の行事の際に利用者様同志の関係がもてるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な限り関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中で、思いや希望をお聞きし、介護記録に記載している。ケアプラン更新時等に計画作成担当者が本人の要望を伺っている。本人の仕草、行動、会話から、本人の意向をくみ取るようにしている。	利用者1人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向については、日々の会話や生活状況の変化等を職員が把握し、その都度介護記録に記入するようにしているが、実践には至っていない。	介護記録をユニットごとにまとめ、職員の意識向上を図り実践できるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の生活歴・生活環境が把握できるよう、独自の生活歴シートを用いている。家族との面会時の会話、また、ケースファイルに過去の生活歴、生活環境等をファイルし、いつでも振り返りができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態が総合的に把握できるよう、入所者様毎の職員担当が、モニタリング時に身体面・精神面等について報告している。記録用紙も本人の状況が把握しやすい書式に変更した。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向が反映された計画書となるよう努めている。モニタリングにて意見・アイデアを出し、情報交換し、計画作成担当者が作成している。	3ヶ月毎にモニタリングをしている。家族からの要望が毎回同じ場合はユニット会議を開き6ヶ月ごとに変更し、ケアのあり方について意見、アイデアの情報を取り入れ、反映されるような介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録へ記録の記入の際、特記的なことは文字の色を変えて日々の様子を個別記録に記入している。業務連絡ノートも活用し、記録に残すように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関連施設・系列法人や関連福祉事業者と連絡をとることや外部の福祉事業関係者へ相談し、既存のサービス以外の支援の活用がなされないか検討し、できる限り柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの喫茶店はなじみがあり、喫茶店の方もホームを理解下さっている。スロープのある店や、安全な道など地域資源等は把握している。本人の身体状況に応じて外出ルート等も検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診の際にかかりつけ医と情報交換し、必要に応じご家族に連絡している。直接、主治医とご家族が電話連絡していただく等、本人及びご家族の意向を踏まえた支援に努めている。	ホームのかかりつけ医がいるが、本人及び家族の希望を大切に、家族の協力のもとを受診した時は、情報の把握に努めている。ほとんどがホームのかかりつけ医の月2回の往診を受け、変化がある場合は主治医から家族に連絡をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と24時間連絡が取れる体制をとっており、気づきや状態の変化があった場合は連絡している。訪問看護時の相談内容等は医療記録として記録している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはグループホームでの生活状況が伝わるよう介護サマリーにて情報提供を行っている。こまめに面会や電話等で病院と連絡を取り、入院先での生活状況、本人の状態把握に努めている。お見舞いカードをお送りしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「入居者が重度化した場合の対応に係る指針」をもとに家族、かかりつけ医と情報交換している。終末期が近くに予測される場合は、家族に来所いただき、対応について話し合いの場を設けている。	入居時、重度化や終末期に向けた看取り介護支援について、家族の協力及び同意を得ている。職員は全員看取りについて前向きに取り組んでおり、研修に参加し内容を回覧して情報を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	正職員は名古屋市主催の定期救命講習を受講している。緊急時の対応がまとめられた本を購入し、テーマを決めて職員会議等で勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練の際に災害時の対策について、職員に周知している。自治会の役員に避難訓練に参加いただき意見交換した。自治会主催の災害訓練への参加等を通して、地域との情報の共有に努めている。	自治会の役員参加のもと、夜間を想定した避難訓練をし設備点検も行っている。その後スロープや非常階段について意見交換がされた。次回はシュミレーション訓練も想定されている。	避難訓練時、近隣に声かけし、日頃から地域との協力体制を築いてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳、プライバシーの確保の為、大勢の前で個人の会話をしない。呼称に注意する等、職員がお互いに意識して行動している。フロア内での申し送りは利用者に配慮して行っている。	個人の尊厳を損ねないよう、プライバシーに関しては個々に接し誠意をもって行動している。管理者が気づいた時は、会議の議題にとりあげ職員の意識向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着る服を本人に選択いただいたりしている。その時の会話の中から、納得が得られてから行動できるように支援している。自己表現が難しい方にもできる限り表現いただけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ希望に添えるようにしている。職員が主体とならないよう、努めている。朝遅く起きたり、夜遅くまでテレビを見ている人もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。起床時の整髪、服の組み合わせなど配慮している。服が古くなったらご家族に新しいものを購入いただくよう依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一連の家事活動からできる力に応じて、下ごしらえ、盛り付け、食器拭き、収納等行っている。味付けを利用者にきいたりしている。	毎日の献立は利用者の好みを取り入れながら職員が作成している。利用者1人ひとりの力量に合わせて、刻み、味付け調理、食器拭き等出来ることから一緒に楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じて必要時は自助具・とろみ剤等の嚥下補助食品も活用している。食事・水分摂取量が明確に分かるような記録の様式を使用している。2ヶ月に1回の体重測定にて栄養状態の参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後、就寝前、臥床時に口腔ケアを行っている。自分でできる方には声かけを行っている。必要に応じて歯科往診を依頼している。1日1回口腔体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、本人の排泄パターンに応じた声かけを行っている。尿意のない方へは本人の仕草や行動から尿意をくみとり、不快感を感じないように努めている。紙おむつから布パンツへ変更できる方は変更している。	夜間帯は、不快感の解消重視か睡眠重視かについて職員間で話し合い支援をしている。1人ひとりの個人差に合わせた取組みをし、紙おむつから布パンツに変更できた利用者がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘時に牛乳をおすすめしたり、食事に便秘予防と思われる食材を使用する等服薬に頼らない意識を持つようにしている。排泄時にマッサージを行ったりしている。下剤の使用は限定的に行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴となっている。失禁後等必要な時は随時シャワー浴等実施している。時間帯は本人の体力、意向にできるだけ添えるよう努めている。できるだけ、本人の意思は尊重している。	火曜日以外は毎日入浴できる環境にあり、週2回は入浴をしている。必要に応じてシャワー浴や、足浴、清拭を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体力、生活リズムを把握しソファ・ベッドでの短時間での休息のお誘いもしている。安眠できるような就寝時間にも配慮している。寝具の清潔な管理、照明、湿度、室内温度にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケースファイルに内服薬情報をファイルし、いつでも閲覧できるようにしている。薬使用後の状態等は主治医に報告することは意識している。薬の変更などがあった場合は業務連絡ノート等で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動、生活歴からの得意なこと、趣味から役割を見つけている。本人の役割、その日、その時の笑顔、満足感を大切にしている。一人一人の役割、楽しみごとをケアプランに取り入れるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	適時散歩、喫茶店への参加をお誘いしている。散歩へ行けない方には玄関のベンチに座って日光浴や外の空気をすっただけよう努めている。遠くへの外出には家族の協力も依頼している。地域の方との外出はできていない。	家族からも外出支援の要望があるが、遠方までは中々実行できていない。玄関外のベンチに腰掛けて日光浴と外気浴でまったりとした時間をすごしている。遠方の外出には家族の協力が必要な状況である。	日頃から、スーパーへ食材の購入に出かけ店員と挨拶をしたり、小学生の下校時に声かけをして地域の人との交流を深めたい。入浴の無い火曜日は、外出支援のチャンスとし有効利用に心がけてほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は原則施設で行っている。金銭管理できる方へは、買物や外出時にお小遣いを持参いただき、支払いを行っていただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望の方には、職員が間に入り、施設の電話を入所者様に使用いただいている。手紙を出すことを希望された場合は一緒にポストへ投函することも有る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝、日差しが強い時はカーテンを閉める、観葉植物を置く、トイレに扇風機、消臭剤を使用、汚物を新聞紙で包む等工夫している。それぞれの場所で生活感や季節感を感じられるよう、毎月のカレンダー、人形の置物や生け花、趣味の作品等展示している。	どの部屋からも心地よい風がリビングを通り抜け、気持ち良い。クリーン環境に職員が積極的に取り組んでいる。リビングには生け花や書道の作品が展示され、利用者はテレビを見たり、新聞を読んだり、一人で静かに寛いでいる姿が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席の配置等で利用者どうしの関係に配慮している。自分で移動できない方は、同じ場所で過ごさない様、会話が生まれるような場所の移動を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みの家具、物品等を持ち込んでいただいている。生活歴の中で馴染みの写真、趣味の品等も持ち込んでいただいている。家具の配置にも配慮している。	ベッドはホーム備え付きだが、日頃愛用していた家具や鏡台などが持ち込まれている。写真や趣味の作品も飾っており、とても落ち着いた居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー構造になっている。また、名前やトイレ等の案内表示、写真なども張りわかることを活かして。行動に支障がでるような障害物は置かないように配慮している。		